



高齢者施設の安全確保を 目的としたネットワークづくり (消防訓練交換会・FIG)



神奈川県 横浜市消防局

事例類型	IV 他団体との連携
取組期間	平成24年5月から

背景

自力避難困難な方が入所する高齢者施設において、各施設関係者が「夜間に火災が発生した場合に、限られた人員や時間の中で、初期消火、通報、入所者全員の避難誘導を円滑に実施出来るのか」といった不安を覚えながら消防訓練を実施していることや、消防用設備等の理解度、火災発生時の対応等について、施設によってレベル差が大きく、同業種の皆さんが様々な課題を抱えていることを共有し、高齢者施設全体のレベルアップに向け活動するネットワークづくりの必要性が生じていた。

内容

1 高齢者施設のネットワークによる消防訓練の充実

(1) 高齢者福祉施設ネットワークづくり

施設の規模、消防用設備等の設置状況に応じて、区内全ての宿泊を伴う高齢者施設のネットワークを発足させた。
※大規模高齢者施設分科会(令和元年12月現在24施設)及び小規模高齢者施設分科会(令和元年12月現在36施設)

(2) 消防訓練の充実

ア 消防訓練交換会(訓練の公開と意見交換)の実施

それぞれの施設で実施する消防訓練を分科会メンバーに公開し、訓練後に見学者を交えた意見交換会を行い、課題を共有し火災対応のレベルアップを図ると共に、お互いに学び合う関係を構築する。

イ 実践的消防訓練(消防用設備等を活用したブラインド型消防訓練)の推進

消防訓練は、ブラインド型訓練を提案し、火点を知らせずに煙発生器で発煙、消防用設備等は可能な限り活用、実際の火災と同様な状況を再現し、訓練実施者が状況に応じて対応する。

特に、夜間帯の火災では、階段を使用して屋外の地上へ入所者全員を避難させることは困難であることから、消防庁通知に基づく「水平避難」を積極活用するため、NPO法人日本防火技術者協会(小林恭一氏)を講師とし、「高齢者福祉施設の夜間の火災どう対応するか」をテーマに火災図上演習(FIG)」を実施した。

火点は煙発生器により発煙

出火室を閉鎖しないと廊下は濃煙

消防訓練交換会の意見交換



2 ネットワーク内での連携(各施設がお互いに協力・応援しあえる仕組みの構築)

(1) 風水害時の一時避難場所提供

近年は台風などによる大規模な風水害が多く発生しており、高齢者福祉施設においても大きな課題となっていることから、風水害時に早期避難を容易にするため、大規模高齢者施設等分科会で、近隣の小規模高齢者施設の一時避難の受入れをすることとした。

(2) 火災時の応援協力体制確立

全ての分科会メンバーの施設には、自動火災報知設備と連動した火災通報装置が設置されており、消防機関へ通報後、二次通報を近隣の施設に自動的に行うようにし火災時に駆けつける等の応援協力体制を構築する。

成果

1 消防訓練の充実

(1) 実践的消防訓練(消防用設備を活用したブラインド型)の定着
以前は、事前に火点・役割分担を示した、シナリオ型の消防訓練を実施する施設が多く見受けられたが、現在では全ての施設でブラインド型の消防訓練を実施し、煙を発生させることにより、出火室の閉鎖や避難経路の排煙等が訓練を通じて身に付いているなど、状況に合わせて適切な対応がとれるようになっている。

(2) 災害図上演習(FIG)の普及と水平避難の積極活用

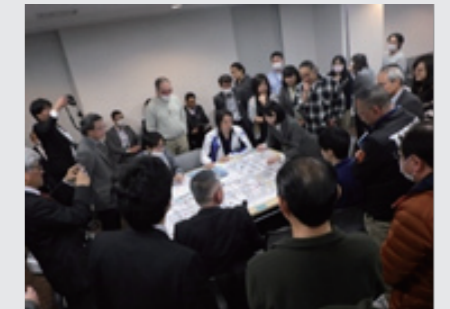
現在では火災図上演習(FIG)は各施設に普及し、夜間帯の訓練では水平避難を活用した、優先して取るべき対応の理解が深まり施設の安全が高まった。

2 ネットワーク内での連携強化と消防訓練交換会の進展

大規模施設が風水害時に一時避難場所の提供を行うことで、行政による指定避難場所の開設を待つことなく速やかに避難行動を開始することが可能となり、浸水想定区域内の小規模高齢者施設入所者の安全確保を早期に確立することが可能となった。

また、消防訓練交換会の意見交換会において、消防訓練実施時に水防訓練も同時に実施することが提案され、浸水想定区域内要援護者施設の水防訓練が実施されることとなった。現在では、福祉避難所開設訓練についても、同時に訓練を実施している。

日本防火技術者協会FIG



各高齢者施設でのFIG



水防訓練実施(一時避難場所受入) 消防訓練交換会(火災・水防)



消防訓練交換会(火災・福祉避難場所)



選考委員からのコメント

自力避難困難者の施設を対象として、施設と消防との信頼関係を築き、さらに施設間同士のネットワークを構築した上で、施設を巻き込んだ実質的な訓練や意見交換の場を設定する事には大きな困難が伴った事が予想されます。消防からの熱心な働きかけ無しには実現できず、大都市部の消防がこのように地道な取り組みをしている点が、中小の消防本部に対しても良い参考になると考えられます。